



THE WORLD OF
BUNZAN AWAI
ART
EXHIBITION

MY HOME TOWN - from WORLD -



「折り」より(部分)

— 誠の心は通じ 実を結ぶ —
大自然へ、世界へ、これまで出会えた
すべてのものとの対話に感謝し、心を
こめて祈る想いを描きます



2011年10月1日(土)～10月16日(日)

瀬戸内市立美術館 3階ギャラリーS及び研修室
9:00AM～5:00PM (最終日は4:00PMまで)

世界からふるさとへ

「粟井文山の世界」展

粟井文山 プロフィール <http://www.nihonbijutsu-club.com/awai/>

- 本名：文字 (旧姓、和田文字)
- 1930年 岡山県生まれ(旧、邑久郡今城村大宮)
 - 1951年 岡山大学教育学部(美術専攻)を経て教職歴15年-やむなく病気退職
 - 1972年 絵画活動復帰(油絵)
 - 1981年 水墨画の道に入る
 - 1985年 国際芸術展(アメリカ・フランス入選)
 - 1990年 国際墨絵展入選8回
受賞4回(ウーン、リスボン、デュッセルドルフ、アメリカ、フランス、スペイン)
 - 1992年 四国松山藩主菩提寺大林寺依頼により羅漢石仏画「慈眼無量」揮毫収蔵
 - 1994年 中国・日本墨絵交流シンポジウムに出席(北京)
 - 1995年 '95中国・日本現代水墨画交流展(北京・東京両展)
「原爆ドームと平和観音菩薩像」大賞受賞
 - 1996年 個展(岡山、明日香画廊) / 岡山県芸術顕彰受賞
邑久町夢おこし賞受賞
 - 1997年 A・M・S・Cマドリッド国際女流作家賞受賞
 - 1998年 第10回(社)日本・中国水墨画合同展「慈眼無量/作品7」会長賞受賞
 - 1999年 中華人民共和国建国50周年 日本・中国水墨画交流北京展
中国美術家協会奨励賞受賞 中国国立炎黄美術館
 - 2005年 被爆60周年に世界平和を祈念し「原爆ドームと平和観音菩薩像」
水墨画作品を広島市へ寄贈 広島市平和記念資料館所蔵展示
 - 2008年 「世界芸術競技in北京2008」中華世紀壇美術館「宝剣岳/F30」出品
美と平和の祭典 世界芸術大賞、昇龍賞受賞
 - 2010年 Japan Art Collection in Saint Petersburg
ロシア国立中央展示場マネージュ「折り/作品7」出品

社団法人 日本・中国水墨画交流協会評議員
雪舟国際美術協会会員
岡山県美術家協会会員
瀬戸内市文化協会会員
(元) 国際墨絵協会理事
(元) 青芝俳句会同人
(元) 赤松柳史俳画砂丘会同人

瀬戸内市立美術館
Setouchi City Museum of Art

入場無料

〒701-4392
岡山県瀬戸内市牛窓町
牛窓4911
(瀬戸内市役所牛窓庁舎3-4階)
TEL:0869-34-3130
FAX:0869-34-4790

URL <http://www.city.setouchi.lg.jp/~museum/>

- JR赤穂線邑久駅より東備バス「牛窓行」(約20分)で紺浦(牛窓支所前)下車すぐ
- 岡山ブルーライン「邑久IC」から県道39号線を「牛窓」方面へ(約10分)

定休日:月曜日(祝日は除く)/祝日の翌日



二〇一一年 九月 吉日

と願っております。どうぞ御清覧ご高評賜りますようお願い申し上げます。御案内の言葉とさせていただきます。

粟井文山(文字)

「あいさつ」 生きることは描くこと 描くことは生きること

昇る太陽を拝み、木に花に森羅万象に感謝し、御先祖様亡き両親に合掌し、月・星に折り一日を終える。また昇る太陽を拝み一日が始まる。こうして私は一日一日の生を載せて今が有ります。

自然の中で感じる宇宙の響きに感動し、内なる想いが、おのずと鉛筆を握りしめ、その生命力に私は生かされています。

このふるさと瀬戸内市(旧、邑久郡今城村)に生まれ、成長し、昭和二十年四月岡山師範学校女子部に入學、全寮制でしたので初めて親元を離れました。その入學後、間もない六月二十九日の未明、岡山市の上空襲撃。学び舎と寮は池田藩の藩池のあった市の中心部にありました。米軍のB29爆撃機の来襲、焼夷弾が雨のように落とされ、低飛行で機関銃を撃つ音も聞こえる中、周囲は火の海。校庭の防空壕で、九死に一生を得た。長兄は中国で戦死した。その報に接した両親の憔悴の姿も私の心に深くある。「いのち」「平和」について考えさせられる。大学に学び教育者として十五年。やむなく病気退職。画業四十年余。

顧みて作品の発表は、縁あって国際展が多く、ふるさとの方々へ原画を覗いて頂く機会が少なく現在に至っております。幸いにして、昨年、瀬戸内市立美術館が設立され、各方面の人々から、「是非地元で」とお声を頂きました。生きていて、作品と共に故郷の人達とお会い出来る機会を与えて下さったこと、この喜びは、筆舌に表わし難い感動でございます。社会の多くの人々との出会いに支えられ、自然の残る緑多き山川、大地。そして海。この自然界で生きる小さな一粒の人間、「今を生きる」粟井文山は、感謝の折りの日々。大自然に生命力をいただき

そこから生まれた作品。病いと共に生きる牛歩の年月の中で制作した作品に込めた私の様々の想いが、どうか皆様の御心に届きますように願ってやみません。今回の個展を一步とし、次の二歩、三歩と自然に学び故郷の皆様と絆を深めて、感謝の心で歩いて参りたいと願っております。どうぞ御清覧ご高評賜りますようお願い申し上げます。御案内の言葉とさせていただきます。



「祈り」(1998) 変10号 右:金陵山西大寺観音院の千手観音菩薩像
中央:北京雍和宮の大仏、左:奈良秋篠寺の技芸天。いずれも私の祈りの心から生まれた作品。



「慈眼無量」(1990) F30 相生市矢野町瓜生の山中出逢った19体の石仏
釈迦三尊と羅漢像。感受の眼差しに覆られ描いた幸せな時間。その一作。

栗井文山の世界

—世界からふるさとへ—



「トラちゃんの指定席 -アトリエの意迎より-」(2005) F30
紅梅の咲くころお気に入りの門の屋根で寝そべて私を癒す。



「栗鼠と落葉」紺本(1991) 42×50
ウィーンの旅で出会った小さな景色。



「唐子踊り奉園」(2004) F30
牛窓伝承の踊り、遠い日の日韓交流の美を描く。



「マスカットと白桃 / 作品1」 F10
描きたい衝動。自然の恵み、神々しい天然色との対話が始まる。